

テーブルアクセサリーのデザイン開発

長谷川恵子 矢野 強 今西千恵子

Design of Table Accessories

Keiko HASEGAWA, Tsuyoshi YANO and Chieko IMANISHI

テーブルコーディネート の普及を背景とした食卓周辺の演出用品の需要に対応する陶磁器製品として、テーブル小物と装飾品のデザイン開発を行った。

生活者の豊かな食空間づくりへの志向と、供給側によるテーブルコーディネート等の生活提案を取り入れた商品開発への取り組みを踏まえ、開発シーンとしてクリスマスのテーブルを想定し、装飾性の高いセンターピースと周辺小物の組み合わせを検討し、19点のスケッチを作成した。その内、キャンドルスタンド、ベースプレート、カトラリーレスト、クロスウェイトの4アイテム13点を試作した。

1. はじめに

生活者の価値観は物質的な豊かさから、生活文化の充実による豊かさの実感へとシフトしており、「食」分野では豊かな食空間づくりへの関心が高まっている。それに伴い家庭内行事における食の団樂が再評価されており、食卓を雰囲気豊かにしつらえる演出小物類の需要が見込まれる。しかし、国内の関連商品開発の取り組みは遅れており、市場に流通する商品の多くを輸入品が占めており、生活者のニーズにあった良質な国産製品の開発により食卓関連用品のシェア拡大が期待される。

一方、製造、販売者サイドでも積極的な需要創出の取り組みが進んでおり、都市部を中心にテーブルコーディネートの展示会、セミナーの企画や、書籍、雑誌などのメディアを通じて、食文化の育成や一般消費者に対する啓蒙・普及活動が盛んに行われている。また店舗では、食卓関連用品をトータルコーディネートして、商品の使用シーンやイメージを積極的にアピールする手法が普及している¹⁾。

そこで、本研究では、生活者の生活観や行動及び供給者側の生活提案型の取組を踏まえて、家庭内行事における具体的な食卓のディスプレイのケースを検討し、テーブル周りの装飾品のデザインと試作を行った。

2. デザイン開発の方針

2.1 デザイン開発の背景

「食」を取り巻く生活者の価値観の変化と、豊かな食空間づくりへの動向を分析し、製品の位置付けやデザインに反映させると共に、家庭内行事におけるテーブルセッティングの普及に注目し、対象となるシーンと実施状況、使用される食卓演出用品の種類、しつらえを規定する条件や演出の心理要素を把握した^{1), 2)}。その概要を図1に示す。



図1 デザイン開発の背景

2.2 シーンの設定

デザイン開発シーンとして、実施率の高い家庭内行事を検討した結果、クリスマスを選定した。

クリスマスは比較的新しい家庭内行事であるが、今日では冬の歳時記として一般家庭に広く定着している¹⁾。一年を締め括るイベントとして、テーブルコーディネートの手法を取り入れたオリジナリティのある食卓の演出が工夫されており、ファッション性や雰囲気豊かな装飾品の需要が増大している。また、例年、百貨店を始め、小売店、専門店など、市場を挙げて、大規模なクリスマスディスプレイが行われるため、製品イメージや使用シーンを消費者にアピールしやすい。

2.3 コンセプト

テーブルセッティングの手法を取り入れた食卓づくりを念頭に、開発コンセプトを次の様に設定した。

- (1) センターピースと周辺アクセサリとを組み合わせた装飾的なデザインの展開
- (2) テーブルクロスやナブキンなどのリネン類、グラス、オーナメントなどの周辺用品との効果的なセッティング
- (3) ディスプレー方法の提案

2.4 開発テーマ

キャンドルはテーブルセッティングのセンターピースや卓上照明として使用頻度の高いアイテムである。特にクリスマスシーンにおいてはシンボルとしての意味を持つことから、ムードづくりに広く活用されている。最近ではインテリアや卓上照明、また、アロマテラピー用の熱源としてキャンドルの種類、形状、色彩のバリエーションが豊富となり、スタンダードなスティックタイプのほかに、ラウンド型、ボール型、フィギア型など、様々な商品が見られるようになった。特にクリスマスをターゲットにした商品の充実にはめざましいものがある。これらのキャンドルと周辺アクセサリとを組み合わせることによって、華やかなクリスマスの食卓の演出が期待できると考えられる。そこで、デザイン開発のテーマを「キャンドルライトクリスマスーキャンドルの灯を囲むテーブルの演出」とし、キャンドルスタンドを中心にデザイン開発を行った。

2.5 開発アイテム・デザイン要素

シーン固有のイメージやメニューから開発アイテムを検討し、テーブルの中心となるセンターピースとして、高さ

と光によるディスプレイが可能なキャンドルスタンド、花や果物などを盛りつけて飾るコンポートを、また、周辺用品として、面を構成するプレート、箸やスプーン、フォークなどをセットするカトラリーレスト、そしてテーブルクロス用の錘（以下クロスウェイトと表記）を選定した。

また、シーンにふさわしいデザインとするため、クリスマスのイメージに合わせ、形状、色彩、食卓に合わせたイメージスタイルなどのデザイン要素を次のとおり設定した

- (1) 形状：雪、星、クリスマスツリー、クリスマスリース
- (2) 色彩：クリスマスカラー

緑、赤、金、白、黒（濃紺）

- (3) スタイル：ロマンティック・エレガント
クラシック

3. デザインおよび試作

キャンドルスタンド4タイプ7点、カトラリーレスト4タイプ5点、クロスウェイト2タイプ4点、コンポート2タイプ、プレート1点、計19点のアイデアスケッチを作製した。その一部を図3～6に示す。これらのデザインをもとにコンポートを除く4アイテム13点を設計し試作した。試作品を写真1～7に示す。また試作データを表に示す。

試作にあたって一般家庭の食卓のセッティングスペースを検討し、製品のサイズを決定した。その模式図を図1に示す。ここでは一般家庭に普及している4人掛けテーブル標準サイズ（幅135cm×奥行80cm）を使用し、一人あたりのスペースを幅40cm×奥行き30cmに設定した²⁾。テーブルの標準サイズは県下の家具店8店舗の商品調査の結果から導き出した値である。

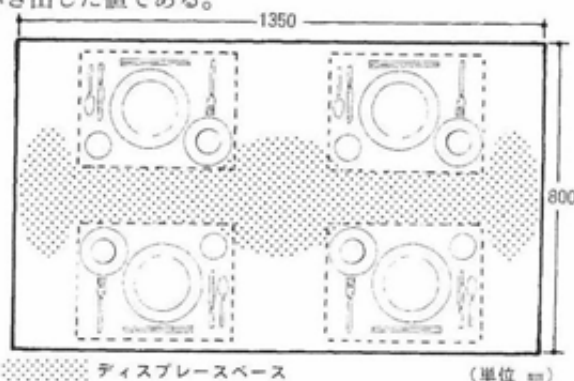


図2 セッティングスペース



図3 キャンドルランプ

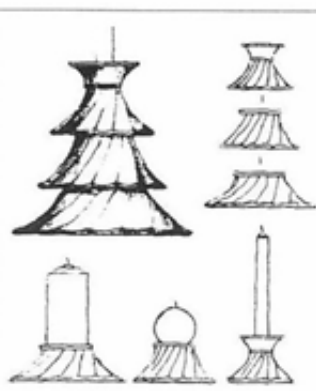


図4 キャンドルスタンド

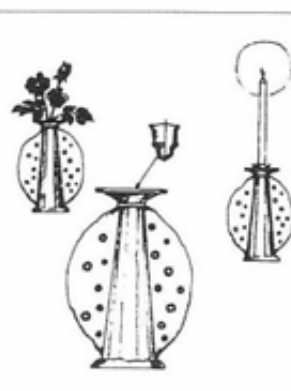


図5 キャンドルスタンド

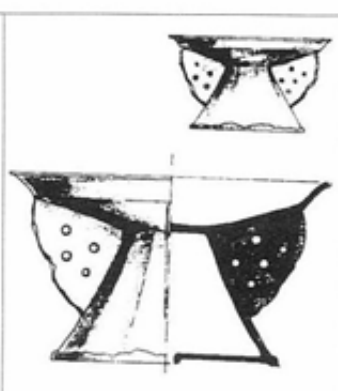


図6 コンポート

表 試作品データ

アイテム		サイズ (mm)	素地/釉薬	成形方法	焼成方法	加 飾
キャンドルスタンド	L M S	W170×D165×H222 W150×D130×H160 φ 115×H120	白磁/透明釉	圧力鋳込み (上部) 排泥鋳込み (ボディ)	ガス炉 1280℃ 還元焼成	下絵付 (染付) 金彩
	ツリー	W 83×D 80×H170				いっちゃん 上絵付
カトラリーレスト	A, B C D	φ 70×H 9 φ 60×H 8 W 95×D 65×H 10		圧力鋳込み		いっちゃん 上絵付 金彩
				手捻り		いっちゃん、金彩
クロスウェイト		φ 30×H 70				
プレート	L M S	W210×D200×H 13 W165×D160×H 18 W 95×D 90×H 18		タタラ成型		下絵付 (染付) 金彩

3.1 キャンドルスタンド

市場においてキャンドル製品の充実が進んでいるのに対し、キャンドルスタンドは意外と種類が少なく、市場でのポジションは低い。そこでデザインにあたり、単なるキャンドルホルダーではなく、あかりを利用した多様なテーブルデコレーションを楽しむ装飾品として位置付け、アイデアを展開した。

テーブルのシンボルとして、「ロウソクを灯すことができる卓上クリスマスツリー」をコンセプトとしたシリーズを設計した。(写真1)

トップにキャンドルホルダーとロウ受けを持つ円錐形のシンプルなボディを基調とし、センターピース用として3方向に張り出す飾り段を設けた。これらの段の部分にケーキ型、ボール型、フィギア型などのキャンドルを乗せて灯すと、複数の灯が螺旋状に展開し、幻想的な雰囲気醸し出す。(写真2)

また、クリスマスオーナメント、造花、フィギアなど、飾るものを工夫することにより、季節感や、物語性の豊かな演出が可能である。飾り段のあるものをテーブル中央に、プレーンな形状のものをその左右に配することにより、統一感や高さの変化がある華やかなテーブルセッティングを楽しむことができる。試作品のボディ部分には呉染付けによるポインセチアの絵柄をあしらった。

同様にクリスマスツリーをモチーフとし、スティック型、ボール型キャンドル用のデザインを作製した。ボディにはいっちゃん盛による雪の模様を配した。複数個並べてセンターピースとして使用する。(写真3)

その他、卓上照明として、ホヤとトレーが分離するランブタイプの燭台をデザインした。(図3)

ケーキ型やボール型のキャンドルを使用するが、キャンドルをセットしやすく、燃焼部が露出しないため、安全である。ムードランプとしてテーブルに配置する。

また、クリスマスツリー形の組み立て式スタンドをデザインした。これは基部を3つに分割でき、それぞれスティックタイプ、ボール型、ラウンド型のキャンドルに対応する。(図4)

3.2 カトラリーレスト

普段の食卓で使用されることが少なくなった箸置き類も行事食ではテーブルの装飾品として活躍する。クリスマス

のメニューは洋食主体であることから、クリスマスリースをイメージしたリング型カトラリーレストを設計した。箸の併用を考慮して、円周上にくぼみを設けるなど箸が安定するよう工夫した。(写真4)

また、飾り付けに適した二つ穴タイプをデザインした。これはペーパーナプキンやシフォンのリボン等を穴にセットして、立体的なディスプレイを楽しむことができる。(写真5)

3.3 クロスウェイト

クリスマスの食卓においては、他のシーンに比べてテーブルクロスなどの使用率が高い³⁾ことから、今後、需要の増加が見込まれるアイテムである。

クロスへの固定方法は縫い付けて直留めする方法とクリップなどで固定する方法が考えられるが、ギフトとしてのニーズを考慮し、形状や材質の美しさが映える製品とするため、金属製クリップで固定するドロップタイプを中心にデザインした。

クリスマスツリーをイメージした円錐を基調とする白磁のボディに、素地の白さを活かして最小限の金彩上絵を施したデザインとした。(写真6)

3.4 プレート

フラットな3つ脚のプレート进行デザインし、大、中、小の3サイズを設定した。サイズにより、ベースプレート、装飾用の台、お菓子や果物を盛り付ける食器、コースター等様々な用途が工夫できる。

泥漿を平面に垂らした時にできる不規則な形を用い、柔らかな手作り風のデザインとした。雪をイメージした低めのいっちゃん盛や、ポインセチアの絵付けを施すことにより季節感豊かな製品となる。(写真7)

文 献

- 1) (財) 中小企業総合研究機構, 地場産業の経営戦略 (その2) 陶磁器製飲食器・ノベルティ製造業, 220, 57-61, 100-102 (1993)
- 2) 木村ふみ, “テーブルコーディネーションレッスン”, 主婦の友社, (1993), pp51-60
- 3) TALK住宅食空間調査委員会, 豊かな食空間の創造に向けて2「招客のススメ」, 24, 15, (1995)

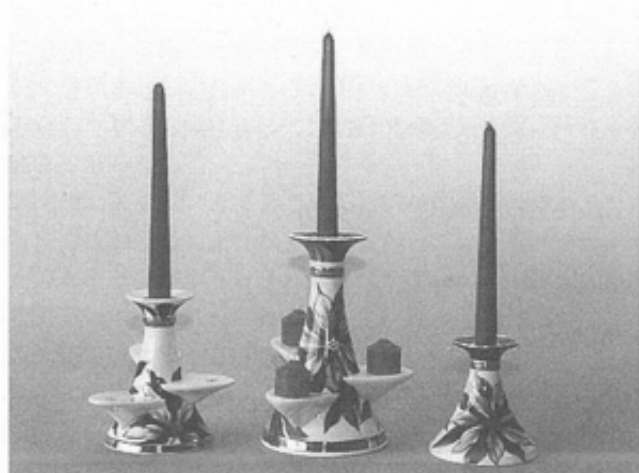


写真1 キャンドルスタンド L, M, S



写真2 点灯時



写真3 キャンドルスタンド・ツリー



写真4 カトラリーレスト A, B, C

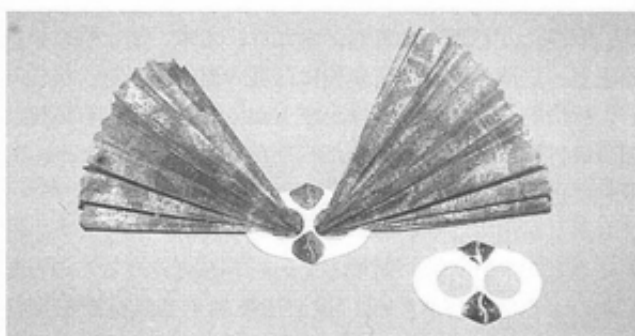


写真5 カトラリーレスト D

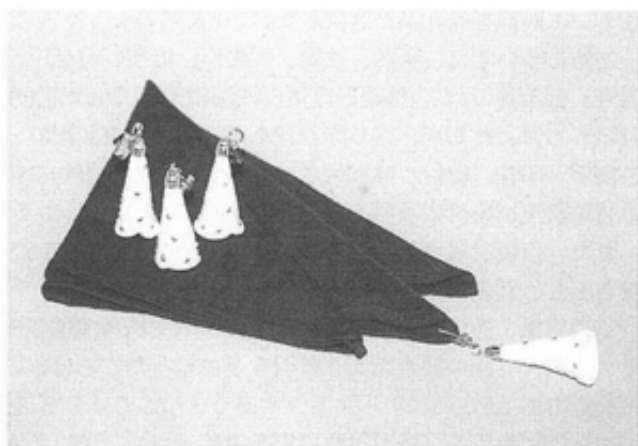


写真6 クロスウェイト

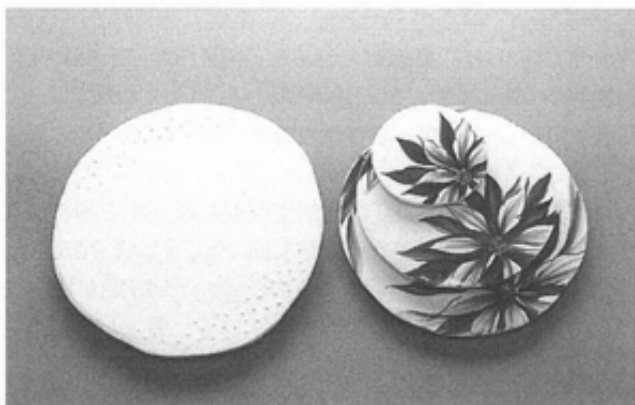


写真7 プレート